

# 盛岡市財務書類<統一的な基準に基づく財務書類> 【平成29年度版 概要】

資産の形成状況や現金の収支状況なども把握し、連結ベースまで作成することにより、本市の財務状況を一体的に示すものです。

一般会計等：一般会計＋母子父子寡婦福祉資金貸付事業費特別会計＋土地取得事業費特別会計  
 全体：一般会計等＋その他の特別会計＋水道事業会計＋下水道事業会計＋病院事業会計  
 連結：全体＋一部事務組合＋広域連合＋土地開発公社＋出資比率25%以上の出資法人  
 ※一部の一部事務組合については、統一的な基準に基づく連財務書類を作成していないため連結対象外としています。

## 貸借対照表 (BS)

住民サービスを提供するために保有する財産（資産）と、その財産をどのような財源（負債・純資産）で賄っているかを総括的に示した表で、作成基準日における財政状態を示したものです。

(単位：百万円)

資産の部				負債の部			
科目	一般会計等	全体	連結	科目	一般会計等	全体	連結
1 固定資産	457,360	643,695	663,266	1 固定負債	132,661	233,147	240,856
① 有形固定資産	431,092	610,042	627,691	① 地方債	119,498	176,515	179,407
i 事業用資産	217,999	229,923	245,916	② 退職手当引当金	13,162	15,366	17,926
ii インフラ資産	212,573	372,420	372,420	③ その他(長期前受金等)	1	41,265	43,523
iii 物品(減価償却累計額含む)	520	7,699	9,355	2 流動負債	13,594	23,348	31,109
② 無形固定資産	32	9,109	9,112	① 1年以内償還予定地方債	11,477	17,900	18,313
③ 投資その他の資産	26,237	24,544	26,463	② 未払金・未払費用	0	2,404	2,819
2 流動資産	11,203	30,774	34,645	③ 賞与等引当金	1,122	1,336	1,574
① 現金預金	2,625	18,781	22,373	④ 預り金	995	995	1,030
② 未収金	508	3,214	3,322	⑤ その他(前受金等)		713	7,372
③ 基金	8,199	9,135	9,275	<b>負債合計</b>	<b>146,255</b>	<b>256,494</b>	<b>271,965</b>
④ 徴収不能引当金	△ 129	△ 466	△ 467	<b>純資産の部</b>			
⑤ その他	0	110	141	<b>純資産合計</b>	<b>322,308</b>	<b>417,974</b>	<b>425,946</b>
<b>資産合計</b>	<b>468,563</b>	<b>674,468</b>	<b>697,911</b>	<b>負債・純資産合計</b>	<b>468,563</b>	<b>674,468</b>	<b>697,911</b>

【一般会計等】  
 4,686億円の資産を形成してきています。そのうち、純資産の3,223億円については、過去の世代や国・県の負担ですすでに支払いが済みであり、負債である1,463億円については、将来の世代が負担していくこととなります。(全体、連結の考え方も同様となります。)

## 資金収支計算書 (CF)

行政活動に伴う現金(資金)の流れについて、異なる3種類の区分に分けて示す表で、会計年度における部門ごとの現金収支を見ることができます。

(単位：百万円)

科目	一般会計等	全体	連結
1 業務活動収支	2,902	13,645	作成省略
① 業務支出	89,634	147,966	
② 業務収入	92,537	161,612	
③ 臨時支出	1	1	
④ 臨時収入	0	0	
2 投資活動収支	△ 1,835	△ 6,221	
① 投資活動支出	8,302	13,756	
② 投資活動収入	6,467	7,535	
3 財務活動収支	△ 999	△ 5,993	
① 財務活動支出	11,478	18,394	
② 財務活動収入	10,479	12,401	
4 本年度資金収支額(1+2+3)	69	1,431	
5 前年度末資金残高	1,561	16,354	
6 本年度末資金残高(4+5)	1,630	17,786	
7 前年度末歳計外現金残高	979	979	
8 本年度歳計外現金増減額	16	16	
9 本年度末歳計外現金残高(7+8)	995	995	
10 本年度末現金預金残高(6+9)	2,625	18,781	

＜業務活動収支＞  
 行政サービスを行う中で、毎年度継続的に収入、支出されるもの  
 ＜投資活動収支＞  
 公共施設や道路整備などの資産形成や投資、貸付金などの金融資産形成に支出したものや資産形成の財源に充てられた収入など  
 ＜財務活動収支＞  
 市債、借入金などの借入、償還など  
 ＜歳計外現金＞  
 職員給与等から徴収した税金や社会保険料など市の所有に属さない現金

## 主な分析指標

＜世代間公平性＞  
 ～将来世代と現世代との負担の分担は適切か～  
 ◆ 純資産比率(純資産÷資産)  
 比率が高いほど、現在までの世代が自らの負担により将来世代も利用可能な資源を蓄積したことを意味し、将来世代の負担割合が少ないこととなる。

一般会計等	全体	連結
68.8%	62.0%	61.0%

＜持続可能年数(健全性)＞  
 ～行政サービスの提供は持続可能か～  
 ◆ 地方債償還可能年数  
 (地方債残高÷償還財源上限額)  
 年数が短いほど償還能力が高いこととなる。

一般会計等	全体
45.1年	14.2年

＜施設更新への備え＞  
 ～公共施設・インフラ等の更新は可能か～  
 ◆ 資産老朽化比率  
 (減価償却累計額÷(償却資産+減価償却累計額))  
 比率が高いほど、施設の老朽化が進んでいることを意味し、施設等の長寿命化対策や更新が必要となる。

一般会計等	全体	連結
58.4%	52.6%	52.7%

## 行政コスト計算書(PL)及び純資産変動計算書(NW)

＜行政コスト計算書＞(下表1～6)

1年間の行政活動のうち、資産形成に結びつかない行政サービスに要した費用と、その行政サービスの直接の対価として得た収入等を対比させた表で、減価償却費や引当金繰入額等の現金支出を伴わないコストも費用として計上しています。

＜純資産変動計算書＞(下表7～12)

純資産が1年間でどのように変動したかを示した表で、資産を構成する財源の増減や構成がどのように変化したかを見ることができます。

(単位：百万円)

科目	一般会計等	全体	連結
1 経常費用	100,307	164,944	204,181
① 人件費	15,446	19,491	24,978
② 物件費等(消耗品費、維持補修費等)	34,131	47,921	52,071
③ その他の業務費用(市債償還の利息等)	2,163	3,988	9,362
④ 補助金等	18,680	70,455	61,885
⑤ 社会保障給付	21,725	21,728	54,255
⑥ 他会計への繰出金	6,865	0	0
⑦ その他	1,296	1,362	1,631
2 経常収益	3,587	18,960	27,376
① 使用料及び手数料	1,858	13,114	13,321
② その他(財産貸付収入、預金利息等)	1,729	5,846	14,055
3 純経常行政コスト(1-2)	96,720	145,984	176,806
4 臨時損失(災害復旧事業費等)	854	1,008	1,018
5 臨時利益(資産売却益等)	113	305	303
6 純行政コスト(3+4-5)	97,461	146,687	177,521
7 財源	92,075	146,270	176,228
税収等	65,212	101,874	116,413
国県等補助金	26,863	44,395	59,815
8 本年度差額(7-6)	△ 5,386	△ 417	△ 1,293
9 その他(資産評価差額、無償所管換等)	2,045	2,046	2,055
10 本年度純資産変動額(8+9)	△ 3,341	1,629	762
11 前年度末純資産残高	325,649	416,345	425,184
12 本年度末純資産残高(10+11)	322,308	417,974	425,946

一致

【一般会計等】

経常費用から経常収益を差し引いた純経常行政コストは、967億円となり、また、これに臨時損失と臨時利益の差額を加えた純行政コストは、975億円となります。これらのコストについて、市税や地方交付税等の一般財源や国・県補助金等で賄っています。(全体、連結の考え方も同様となります。)

※財務書類に表示している金額は、百万円未満を四捨五入していますので、計の数値が一致しない場合があります。

一致